

ペルーの遺跡と化石ライフ

根本しおみ

ペルー地球物理研究所

国立ムツミ・イシツカ プラネタリウム

子供の頃から天文学者になることが夢でした。高校の時は地学部で、昼間は天気図を書き、近所の地層の走向と傾斜を測り、夜は星を見に部員達と山登りをしたりしていました。大学の際は国立天文台で「宇宙に生まれたばかりの星の周りで、ガスがどのような動きをしているか」を研究していました。大学卒業後、7年間民間企業に勤め、その後、杉並区立科学館、葛飾区郷土と天文の博物館、渡辺教具製作所、川口市立科学館の各プラネタリウムで働いて、現在、ペルー地球物理研究所のプラネタリウム・アドバイザーです。学芸員と気象予報士の資格を持っています。

ペルーに住んでもうすぐ2年になりますが、私がこの国で特に楽しんでいるものは、遺跡と化石です。「遺跡（特に天文学に関係するもの）巡り」と、「化石拾い」が、ここでの私の趣味です。今回は、私の「ペルーの遺跡と化石ライフ」をご紹介します。

リマから北に約360kmのところにはチャンキーヨという古代の太陽観測所（B. C. 400-B. C. 0）があります。丘の上に13の塔が建っていて、丘の下から、どの塔から太陽が昇るかを観測してカレンダーにしていたようです。残念ながら見に行った日は曇りで、太陽観測はできませんでしたが、いつか実際に観測してみたいものです。季節の移り変わりを知るためには、太陽の観測をする事が一番お手頃なので、このような太陽観測所はペルー各地の遺跡に残っているはずです。みなさんの任地の近くに、もし遺跡があって、太陽観測所らしき場所があったらぜひご一報ください。確認しに行きます。



Fig.1 Chanquillo 太陽観測所

また、リマから北東に30kmほど行ったところにチョコカスと言う場所があります。ここには、古代の人々が描いた岩絵（B. C. 1800-B. C. 800）が点在する丘があります。絵が書いてある岩を探しながら丘の上を歩くのですが、まるで美術館にいるようです。（あくまでも個人の感想ですが、リマの美術館より数段面白いです。）太陽や月を描いたと思われる岩絵もあります。人物画(?)もあれば、静物画(?)もあって、ここは古代のアーティスト達のアトリエだったか、もしかしたら本当に美術館だったのかもれません。

太陽?

太陽?



Fig. 2 Chocas の岩絵 太陽と月?



Fig. 3 Chocas の岩絵 宇宙人?と地球人

リマから東に 300km、途中 4818m の峠を越えて行った先にワンカイヨという街（標高 3300m）があります。この辺りは其処此処に化石を採集できる丘があります。アンモナイトが出る事から、この辺りは中生代（恐竜がいた時代）の地層が露出している場所と思われます。出張でワンカイヨに行く度に、化石の出る丘巡りをするのが最近の楽しみです。これまでに、“恐竜の巣”^{*注}と“恐竜の歯”^{*注}を発見しました。化石と対面するたびに、「ここが海の底だった 1 億年前に何が起きていたのか？」と、ペルー地球物理研究所・隕石&化石同好会の同僚達と自説を披露し合うのですが、想像力を刺激する、わくわくする時間です。（*注：あくまでも本人の思い込みです。古生物学的に検証されている訳ではありません。）



Fig. 4 丸い石（恐竜の卵？）がたくさん並んでいる“恐竜の巣？”

ちなみに、ペルー地球物理研究所・隕石&化石同好会で丘巡りをする時には、必ず磁石を携帯します。ワンカイヨ近辺の山や丘を google map の航空写真で見ると、所々に丸い穴が開いているようなところがあります。もしかしたらクレーター（隕石が落ちた跡）かもしれません。丘巡りの際には、「穴」にも立ち寄って周りに隕石が落ちていないか確認します。（隕石は鉄分が多いので、磁石にくっつきます。）残念ながら、今のところクレーターと言えそうな穴には巡り逢っていないのですが、そのうち出会えるかもしれません。

ワンカイヨに行く時には高速バスを使うのですが、車窓からの眺めに実に興味深いものがあります。標高が高くなるに連れて変化する植生、アルパカの群れとの出会い、そして、なんと言っても、地層見放題です！（地層見放題に興奮するのは私くらいかもしれませんが、ペルーの道路脇はコンクリートで被覆しないので露頭が見られるのがいいですね。）ダイナミックに褶曲した地層が、億の単位の年月をかけて海底からアンデス山脈になっていった歴史を物語っているのですが、私には読み解く知識が無いので、もし地質学に詳しい方がいらっしゃったら今度一緒にワンカイヨ行きのバスに乗りませんか？

バスが峠を越えてワンカイヨに近くなって来る頃、ラ オロヤとハウハの間のマンタロ川沿いの山肌には、よくぞこんなにたくさん作ったものだと感心するほどたくさんの段々畑があります。プレインカ時代、この辺りに住んでいたワンカ族が作ったものです。（B. C. 1000-A. D. 1460、ワンカイヨという地名もワンカ族から来ているそうです。）

段々畑には3つの用途が考えられます。①種をまいて作物を収穫する。②種をまかなくても、生えてきた草を家畜のえさにする。③雨水が斜面を流れ下らず、山にしみ込むので、地下水脈の保全になる。

こんなにも大量の段々畑を作った理由としては、③の要素が強かったのではないかと私は感じています。実際に、フジモリ政権時代に山に段々を作って実験した跡がワンカイヨに残っています。（実験結果が出る前に政権が終わってしまったのですが。）

我が家のリビングには「ペルーで拾ったもの」コーナーがあります。ペルーの遺跡で拾った土器の破片や、アンモナイトの化石が展示してあります。アンモナイトを眺めて満足感に浸っている時、心は横浜山手界隈の地層が見える場所を探して歩き回っていた高校地学部時代に戻って行くようです。